

松波むかし語り ここに住み続けて

その 58

今回のお客様

千葉商吹奏楽部の顧問 7 年目の先生

すずかけ なおこ
鈴掛 直子さん 千葉商



“毎年の敬老会で、むしろ、感動して元気をも
らっているのは生徒たちのほうなんです！”

毎年 9 月に行われる松波敬老会で、お年寄りたちに人気なのが千葉商吹奏楽部の演奏です。150 名近くの部員(今年は 148 名)が、会場の千葉商食堂一杯に繰り広げるパフォーマンスは圧巻の一言。しかもお年寄り一人ひとりに寄り添い、いっしょに歌う場面は感動的ですが、その吹奏楽部の指導に当たっているのが鈴掛先生です。「楽しんでいただけてありがとうございます。でも生徒たちのほうも、泣きながら歌ってますからね。私は、松波の敬老会が生徒たちの人生観を変えたと思っています。会場のたくさんのお年寄りに元気になってほしいと思いつつ、逆に元気をもらっています」。いい生徒さんですね。

先生は静岡県御前崎の近くのお生まれ、お父さんの転勤で各地を転々としたあと、中学から習志野に落ちついて習志野高校に進みました。「じつは中学時代からの運動部に入るつもりが、友達とのつきあいでつい吹奏楽部に入ってしまった」ために、トランペットを吹くはめに。習志野高校といえば吹奏楽の名門、素晴らしい指導者のもと、その魅力にはまります。「私は国語と古典を教える教師ですから、音楽の専門家でもありません。うまくならない半分の責任は指導者にありますが、まずは良き教育者でありたいと……」。

鈴掛先生の教育者としての一面がよく表れているのが、毎年 12 月に開かれる定期演奏会での「松波の街並み」。町会長とおぼしき人物、あの商店のおじさんとおぼしき人物を生徒たちが演じながら演奏するパフォーマンスです。「私はこの松波が大好きですから、松波を取り上げるのですが、住んでいるまちが好きになれないと、周囲に無頓着な人間ができるようでしかたないんです。それに、年長者をみて、『まったくかなわないな』と思うことは成長のチャンスですし……」。余談ですがこの配役、生徒の希望が殺到するのだとか。



昨年の敬老会での演奏から

インタビューしたお盆明けの日曜も、校舎内から楽器の音が。ちょうど県代表 8 校のうちの一つに選ばれ、9 月の水戸で開かれる関東大会を前にした練習が続いていました。練習は休みなしですか？「千葉商は定時制が夕方 4 時半に授業が始まるんで、音を出す吹奏楽部は練習がきゅうくつなんです。私たちは“ナイトクラブ”なんて呼んでいますが、夜遅く練習したり、運動部の練習が終わった後の体育館を使ったりしています。それで早朝、練習するために、朝 4 時 50 分に家を出てくる子もいるんです」。聞けば、商業高校は

全県から通ってくるのだそうで、小湊鉄道沿線や東金あたりの生徒もいるのだとか。「びっくりするぐらい真っ直ぐな子ばかりです」。

昨年の定期演奏会は、入りきれずに入場をあきらめるお年寄りも。「今年はクリスマスの 25 日の予定ですが、入場制限などないよう午後と夜の二部制にしました」。ちなみにこの演奏会は、数年前からお年寄り専用の特別な窓口と席とが設けられています。「お年寄りに寒い中、待っていただくのは申し訳なくて」。これも鈴掛先生らしい配慮でしょうか。(竹)